

みやぎ技能 KENTEI NEWS

-第2号-
平成30年7月

宮城県は、技能向上に挑戦する会社と若者を応援します。

株式会社登米精巧 大内鮎美さん（22歳）

2級機械検査技能士（機械検査作業）平成29年度合格



良い製品をお客様に提供し続けようという意識が一層強くなりました

受検するきっかけ

平成26年に地元の高等学校を卒業後、株式会社登米精巧に入社し、製造現場で物づくりの基本（プレス、カシメ作業等）を学び、その後、品質保証室で精密部品の受入、出荷検査業務を担当しております。

受検のきっかけとなったのは、平成29年に機械検査3級に合格し、更なる技術技能の向上を目指したことで、会社で技能検定の資格取得に力を入れ推奨していて、多くの先輩技能士がいる環境に刺激を受けたことです。

また、技能検定受検に臨む上で「合格」という結果もとても大事ですが、受検するにあたってのプロセスに必要な知識や測定方法、心構えなど、上司や先輩に指導して頂きながら自らが勉強する上で得られる事がとても大事だと気づき、受検しました。

合格に向けて取り組んだこと

技能検定受検の約3か月前から、一級技能士の先輩に実技試験と学科試験それぞれの試

験に関する指導をしていただきました。

学科試験の勉強は、過去の試験問題をひたすら家で繰り返し行い、問題で分からない言葉や内容などは、翌日先輩技能士の方に教えてもらいながら理解を深めていきました。

実技試験の練習は、本番を想定した測定作業のため、会社の仕事が終わってから技能士の方に模範となる測定技術と実際の測定作業を一つずつ見せていただき、その後に自分が繰り返し練習を行いました。

自分が苦手な所やうまく測定できない所は、先輩に測定のポイントや測定方法のコツを教わるなどしながら、少しずつ技能を習得していき、日を追うごとに自分でも上手に測定できる実感を得ながら進めて行く事ができました。



一級技能士を目指して頑張っていきます

技能検定受検を通して得たこと

私は検査を仕事としているのですが、受検を通じて、重要な測定具の特徴や基本的な取り扱い方法、管理の仕方、正しい測定方法、測定数値を正しく読み取れるスピードなど、学んだ事

が非常に多く、更に勉強が必要だと感じました。

検定に合格し技能士という資格を得たことで、今まで以上に検査の仕事に責任と自覚を持ち、「不適合品を受入れない。流出させない。」という使命感で、良い製品をお客様に提供し続ける意識がより一層強くなりました。

また、機械検査に対する興味と関心が更に深まりました。

今後の目標

今後は、機械検査技術、作業の技能を更に身に付け、2級機械検査に合格しても、まだまだ分からない事や学ぶことが沢山あるので、自ら率先して勉強し「検査力」を身につけていきたいです。

また、会社の中でも機械検査を受検する後輩達に、自分が身に付けた知識や技術、苦労した経験等を、うまく教えられる技能士になりたいと思っています。更に、当社で女性初の一級機械検査技能士を目指し、今後も日々頑張っていきたいと思えます。

事業者の声：工場長 齋藤勝志さん

当社では、多品種少量生産の精密部品を、大きいサイズでは3mを超えるものから小さいサイズでは1.0mmと、顕微鏡でないと測定できない部品まで多岐に亘って扱っています。お客様の要求事項も年々難しくなり、納める製品に責任をもった品質保証ときめ細やかさを加えて、顧客に満足していただける製品の提供が大事と考え取り組んでおります。

平成11年からは、社員の技能向上と物づくりの基本を学ぶべく、技能検定にチャレンジし、会社でも資格取得に向けて受検料の負担や奨励金制度を設け、現在では全従業員の約70%がそれぞれに必要な資格を得ながら

時代の変化（ニーズ）に敏速に対応できる
創造的物づくり工場を目指して



活動しております。

近年では加工設備の進化に伴い、高精度での様々な加工ができ、設計段階から3DでのCAD/CAMの活用で製品要求における測定寸法も、三次元測定機を用いないと測定できない部品なども多くなり、固有技術や技能にあまり囚われない時代になってきております。しかし、地場企業としての持続的成長を目指し、「対応力」を武器に先端技術と複合技術で更なる発展に努め、絶えず顧客に必要とされる会社作りに取り組んで行くため、「ものづくり」の原点でもある人財の育成、技術技能の向上を技能検定や社内教育を通じて行い、様々な作業の基本を学ばせ、その上で新たな技術や手法を組み合わせながら全社の技術の底上げを図っていききたいと思えます。

会社紹介

称号：株式会社登米精巧

代表：代表取締役 後藤康治

設立：平成元年1月

所在地：登米市迫町新田字日向97-1

電話：0220-28-2888

事業内容：

機械・省力機器の設計、製作販売、精密機械部品製造販売、金型・プレス部品加工、ユニット組立販売、カチオン電着塗装 等
ホームページ：http://www.tomeseicoh.co.jp

県からのお知らせ

ものづくりマイスターが若手社員に実技指導します

内容：技能競技大会の課題又は技能検定の実技課題等を活用した実技指導

費用：マイスターに対する謝金、旅費、材料費は宮城県技能振興コーナーが負担

問 宮城県技能振興コーナー ☎022-727-5380



H29年度実績
中小企業 374人
機械加工（旋盤、フライス盤）、放電加工、電気溶接、機械検査、建築大工、建築板金等

株式会社堀越 鈴木友美さん（34歳）

1級塗装技能士（建築塗装作業）平成25年度合格



受験するきっかけ

「建築なんて女のする仕事じゃない」建築の道へ進学すると決めた時の父の一言がすべての原動力となっています。今でこそ男女平等と言われ女性の職人も増えてきていますが、設計士であった祖父を見て育った父は、男社会へと飛び込んでいく決意をそこで確認したかったのかもしれないと今は思っています。

女性というだけでなめられる世界。武器になるのは資格と思い、土木でも建築でも学生のうちに挑戦できるものは取得してきました。入社してからは技能コンクールに出品し、最初は自由課題、慣れてきたら一般課題と挑戦し、その先に技能士資格取得という目標ができました。

合格に向けて取り組んだこと

元々工作や技術の授業が好きでしたし、建築科で設計など細かい作業も勉強していたため、作図やまっすぐに塗り分けることには自信がありました。しかし、職人と現場管理という二足のわらじでいる私は職人としての経験が乏しく、スピードが一番の問題でした。試験対策の講習会での腕試しと、現場や講習会で速い人の作業を見てどこでどんな段取りをしたら無駄を短縮できるかよく見て、時間があれば練習をして技を身に付けてきました。

技能検定受験を通して得たこと

下地に合った材料の選定、丁寧な作業は当たり前。ただ綺麗に仕上げるというのは時間さえかければ誰にでもできる。速いけれど雑に見えるのではなく、段取りを良くして可能な限り工期短縮することで、仕上がりも丁寧に、作業中の周辺環境にも配慮できるし、工事中にもお客様に快適に生活していただけるようにと心がけることができました。



様に快適に生活していただけるようにと心がけることができました。

今後の目標

コンクールの作品制作をとおして、デコラティブペイントに興味を持ちました。岩や木などを塗装で表現することでどんな下地にもどんな仕上がりも再現できる無限の可能性のある分野だと思います。クロス仕上げが増えて塗装は減っていますが、店舗などでコンセプトに沿った自由な空間を造り出せますし、住宅でもワンポイントのデザインを入れるだけでガラッと印象を変えることもできます。塗装だから出せる面白さをたくさんの人に知ってもらいたいです。



事業者の声：代表取締役 堀越良克さん

女性の塗装工や現場管理者の採用を始めたのは平成10年です。当初、男性ばかりで女性対応ができていない現場が少なく、どの現場に配置したらいいか悩んだものでした。実際、現場に出てもらうと、意外と男性の皆さん親切でその不安は払拭されました。女性の職人が来ると安心する方も多く、女性ならではの極め細やかな目線での作業も好評です。今後は経験年数を基に塗装の基幹技能士を取得してもらいたいと思っています。

企業の取り組みとしては、資格取得費用の援助と合格お祝金を支給しています。多くの社員が技能士の資格を取得できるように、今後も応援し、より働き甲斐のある環境を作っていきたいと思っています。

会社紹介

称号：株式会社 堀越
代表：代表取締役 堀越良克
設立：昭和51年（創業昭和49年）
所在地：仙台市宮城野区中野3-5-22
電話：022-258-6768
事業内容：塗装・防水・建築一式工事等
ホームページ：http://horikoshi.info/

宮城県古川工業高等学校 角田優士さん（17歳）

2級建築大工技能士（大工工事作業）平成29年度合格



受検するきっかけ

最初は、ものづくりコンテストに出場したのがきっかけでした。そこで、ものを作る楽しさを知り、建築大工3級を受験しました。無事に3級は合格し、さらに上の級も目指してみたいと思い、2級を受検しました。



ものづくりの楽しさややりがいを感じました

合格に向けて取り組んだこと

最初に完成したのを見たときに簡単に作ることができるかもしれないと思いましたが、いざ取り組んでみると想像以上に難しく、少し自信を無くしかけました。不安を払拭するために毎日の練習を積極的に行うなど、夜遅くまで頑張りました。また、講師の方にも来ていただき、細かい部分や加工の時に気を付けるべきところなどを教えていただきました。日々の練習で教えていただいたことができるようになるまで、何度も繰り返し練習しました。

技能検定受検を通して得たこと

前文でも述べましたが、まずものづくりの楽しさややりがいを感じました。うまく組み上がるように考えながら丁寧に加工して、それが隙間なく合った時はとても嬉しかったです。また、社会人になってからでは、建築系の仕事に就かない限りこのような経験はできないと思います。そういったことをふまえると、とても貴重な経験ができたと感じています。

今後の目標

私は将来、大工の仕事に就きたいと思っています。卒業後もこの検定で得たものを最大限に発揮していきたいです。そして、将来的には大工1級もとっていきたいです。

学校の声： 秋山幸弘校長

本校は、創設84年を迎え、全日制課程に土木情報科、建築科、電気電子科、機械科、化学技術科の5学科18クラス、定時制課程には電気科、機械科2学科8クラスを設置する県内有数の工業高校です。

各学科とも地域との連携を密に図りながら、生徒の個に応じた教育活動や、工業に関する専門的な知識や技能の習得に努めるとともに、スペシャリストを目指して積極的・意欲的に高度な技能検定などの資格取得に挑戦するなど、様々な特色ある取組を行なっています。

今後とも、伝統と校風を引き継ぎ、充実した工業教育を基本として、関係機関等の御支援をいただきながら、地域の産業界との連携を図り、震災からの復興・発展に寄与する心豊かで実践的な知識や技術・技能を身に付けた工業技術者の育成に努めていきます。

学校紹介

学校名：宮城県古川工業高等学校
校長：秋山幸弘
創立：昭和9年4月12日
学科：【全日制】土木情報・建築・電気電子・機械・化学技術
【定時制】電気・機械
所在地：大崎市古川北町1丁目4番7号
電話：0229-22-3166
ホームページ：http://www.furukk-h.myswan.ne.jp/

発行 宮城県経済商工観光部産業人材対策課
電話 022-211-2763
メール sanzinj2@pref.miyagi.lg.jp
Web http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sanzin/
☆技能検定やものづくりマイスターにつ☆
☆いて、お気軽にお問い合わせください。☆